

熊本知事 非難の風潮批判

「自己責任論で片づけられぬ」

イラク人質日本人

国際貢献の芽 摘み取るのか



イラク人質事件について発言する潮谷義子・熊本県知事。熊本県庁で23日午前11時5分、石川淳一写す

「自己責任論で押し切って、新しい国際貢献の芽を摘み取っていいものだろうか」。熊本県の潮谷義子知事は23日の記者会見で、イラクで救出された日本人人質に対する非難の風潮を強く批判した。救出費用の負担を求める閣僚の発言などから始まったバッシング。海外では、今回のボランティア活動などを高く評価しているのは対照的に、日本で渦巻く「自己責任論」。潮谷知事の発言に共感する声も多く、海外で活躍するNGOなどの活動を評価し直すきっかけにもなりそうだ。

■知事会見
「命を顧みずボランティアを」短兵急に論じ切る
イアや報道などの活動を「歴史の中で見るべき。自己責任論だけでは定例会見で、イラクで救出された日本人を、こ

う位置づけた。更に「(問題)短兵急に論じ切るのではなく、歴史の中で見るべき。自己責任論だけでは定例会見で、イラクで救出された日本人を、こ」と述べた。

少女時代に読んだシュバイツァーの伝記に感動して、福祉の道へ進んだ潮谷知事。ボランティア活動に対する思いは深い。それだけに「ボランティア活動も多様化しており、バッシングが続くと、その芽を摘んでしま

うのではないかと強い懸念を示した。

■海外で高い評価
人質らのボランティア活動や報道活動については、海外でむしろ、高い評価を受けている。自己責任を問う声が列島に広がったことについて、仏紙「ルモンド」は「日本では人質に解放費用の支払い義務」と題した記事(19日付)で「日本人は人道主義に駆り立てられた若者を誘うべきなのに、政府などは人質の無責任さをこき下ろす

潮谷知事の発言要旨

人質が解放された背景には、イラクに対しての友好的・人道的な観点からのボランティア活動があったと思う。だから自己責任論だけで片付けていいものかと感じる。

もちろん、私たちは自分たちのさまざまな領域での活動を選択し、動くしていったと思う。

人質が解放された背景の自己責任を意識して短兵急にこの時点で評価するのは、歴史の中で見ていくことも大事な。NPOなどは、常に相手の求めに応じて先進的な形で(援助を)行う性格がある。自己責任論で押し切ると、多様な形で始まった活動の芽を摘んでしまうんじゃないかと懸念する。

以前に国連で「日本は経済的にはバックアップするが人の顔がみえない」とストレートに聞いた。今回の出来事でバッシングが強いと、多様な形で始まった活動の芽を摘んでしまうんじゃないかと懸念する。

とは否定できない。自己責任とは自分の行動が社会や周囲の人にとどのような影響があるかをきちんと考えることだ」と厳しい批判を浴びせた。

■市民団体は
市民団体で構成する「平和をせよ」という人々のネットワーク・福岡が23日、イラクでの日本人拘束事件に関して「日本政府の『自己責任』発言を許さず、『人道復興支援』という名で米軍を支援する自衛隊の即時撤退を求める声明」を小泉首相、外相と防衛庁あてに送った。

声明では「政府は『自己責任論』を主張し、それに基づいた中傷が拉致された3人とその家族を苦しめている」と政府の対応を批判している。

「バッシングが政府が利用」
大谷民
人質の自己責任論に対して、ジャーナリストの大谷昭宏氏は、「瞬間的な感情でバッシングが始まり、これに政府が乗った対応と批判する。さらに今回のような自己責任論が過剰に増えていけば、政府に批判的な立場をとるものには何も行政サービスはしないという所まで発展しかねない」と指摘し、今回のような事態を乗り越えるためのセーフティネットを作らなければならないと指摘し、国民は税金を払ってきていると、政府の態度を非難した。そのうえで「最初の段階で、人質の家族から一部で不信を買う言動があったのは事実だが、今回の事件で、NGOの活動やフリージャーナリストが非難を受ける必要はまったくないと思う」と述べた。